

2022 年度第 12 回価格審査会の開催について

2022 年度第 12 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2023 年 3 月 14 日(火)
場 所	6 階大会議室
委 員	田中 弘 日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 竹本 康之 東日本建設業保証株式会社 業務部 業務サービス課長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリnz・テクリスセンター長 早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：今井 豊 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2022 年度第 11 回価格審査会議事録(案) 確認

2022 年度第 12 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
<p>1. 「建設物価」4月号、「Web 建設物価」4月号</p> <p>「土木コスト情報」春号、「建築コスト情報」春号の価格動向</p> <p>・価格が上伸した資材（工事費）</p> <p>【Web 建設物価】</p> <p>異形棒鋼（青森市ほか 46 都市）、線材製品（近畿地区ほか 4 都市）、セメント（バラ）（那覇市）、レディーミクストコンクリート（室蘭市ほか 53 都市）、アスファルト混合物（津山市ほか 15 都市）、インターロッキングブロック（新潟市ほか 3 都市）、建築用コンクリートブロック（東京都 23 区ほか 3 都市）、鉄スクラップ（札幌市ほか 57 都市）ほか。</p> <p>【土木コスト情報】</p> <p><市場単価> 鉄筋工【市場単価】（福岡県ほか 6 都市）、ガス圧接工【市場単価】（新潟県ほか 21 都市）、インターロッキングブロック工【市場単価】（新潟県ほか 3 都市）、道路標識設置工【市場単価】（北海道ほか 46 都市）、法面工【市場単価】（北海道ほか 46 都市）ほか。</p> <p><土木工事標準単価> 区画線工【土木工事標準単価】（北海道ほか 46 都市）、区画線工（北海道特殊規格）【土木工事標準単価】（北海道）、高視認性区画線工【土木工事標準単価】（北海道ほか 46 都市）、橋梁塗装工【土木工事標準単価】（北海道ほか 46 都市）ほか。</p>

【建築コスト情報】

<市場単価> 鉄筋工事【市場単価】（水戸市ほか15都市）、圧接工事【市場単価】（新潟市ほか3都市）、型枠工事【市場単価】（札幌市ほか29都市）。

<標準施工単価> 鉄筋工事（水戸市ほか15都市）、型枠工事（札幌市ほか7都市）、金属工事（タラップ、雑工事）（札幌市ほか9都市）ほか。

- ・価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】

H形鋼（青森市ほか14都市）、等辺山形鋼（青森市ほか14都市）、鋼板（青森市ほか34都市）、一般建築用木材（青森市ほか45都市）、燃料油（水戸市ほか32都市）、鉄スクラップ・ステンレス（札幌市ほか11都市）ほか。

【土木コスト情報】

なし。

【建築コスト情報】

<標準施工単価> 土工事（親ぐい横矢板工法）（大阪市ほか2都市）、土工事（山留め支保工）（大阪市ほか2都市）

2. 比較資料

- ・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問1	コラムのコメントに「需要減少による販売店間の受注競争が激化」とある。過去には「需給ひっ迫が続いている」という言及があったが、需要は減少したのか。	需給ひっ迫で入手困難な状態が続いていたのは、大型物流倉庫等で使用されるBCPコラムで、中小物件等で使用する一般的なコラムにおいてはひっ迫感は少なかった。
質問2	セメントの那覇で大幅に値上がりしている理由は何か。	セメントは全国的に概ね3,000円程度の値上げ交渉が続けられている。那覇ではレディーミクストコンクリートの値上がりを背景に、セメントの値上げが浸透した。
質問3	輸入材に対し国産材を増やす動きがあると過去に説明があったが、国産材は増えたのか。	ウッドショックを乗り切るために、国産材を増やそうとする動きがあったが、現在のところ輸入材と国産材の割合に大きな変化は見られない。
質問4	コンクリート型枠用合板のコメントに「需要減少による販売店間の受注競争が激化」とある。その一方で、レディーミクストコンクリートの需要は堅調に見えるが、コンクリート型枠用合板の需要は減少しているのか。	首都圏の工事需要は堅調であるが、コンクリート型枠用合板の需要が減少している。連続して値上がりしている時期は、注文が殺到し在庫僅少であったが、ここにきて価格も落ち着き在庫が積み増しされ始めている。このため工事業者は様子見姿勢となり需要が減少した。

質問 5	枕木が需給ひっ迫で値上がりしているとのことだが、この枕木の用途は何か。なぜ需給がひっ迫しているのか。	この枕木は、PC 橋架設のアンカー工に用いるもので、鉄道で使われていた防腐加工品の中古枕木である。鉄道でコンクリート製枕木が増加し木製枕木が減少しているため需給がひっ迫している。
質問 6	土木工事標準単価が労務単価変動の影響で上伸しているとのことだが、最小変動率に 0 %があるが、その要因は何か。	沖縄県の橋梁塗装工労務単価が変動無しであったため、土木工事標準単価の橋梁塗装工（工事費）も変動無しとなった。
質問 7	鉄スクラップはしばらく下落傾向であったと認識しているが、今回は、「国際相場の上昇を背景に値上りした」とのことだが、どういう状況か。	国際相場は様々な要因で価格変動するが、値上がりした要因の一つとして、トルコ地震による復興需要の見込みや、中国において需要復活の兆しが見えてきたなど、需要への期待感が生まれていることが挙げられる。
質問 8	土工事（親ぐい横矢板工法）と土工事（山留め支保工）が材料費の値下がりやを理由に下落している。この材料費とは鉄骨材料でよいのか。	鉄骨材料費の値下がりや、賃貸料金の保証部分である基礎価格の下落として反映されている。
質問 9	H 形鋼やコラムが「需要減少による販売店間の受注競争が激化し」と東京都 23 区も含めて値下がりしている。東京地区は再開発等で需要が多いと考えていたが、減少傾向なのか。	東京地区の大型再開発工事等は非常に好調である一方、中小物件の需要は低迷している。これら中小物件向けの H 形鋼やコラムは店売りといわれる在庫品販売が商流の中心であり、この価格が下落した。
質問 10	一般建築用木材の全国的な下落に北海道と沖縄は含まれていないが、普通合板は札幌市や那覇市を含め全国で下落している。同じ木材でなぜ違っているのか。	一般建築用木材は、植生が異なる北海道地区と沖縄地区は別分類で掲載しており、値動きも異なる。一方、普通合板は輸入品が主であり、北海道、沖縄を含む全国各地を掲載している。
質問 11	コンクリート防食工で「工事業者による価格改定を受け上伸」とあるが、業者間で価格競争は起きないのか。	資材価格や人件費の値上げは、業界全体の課題との認識が強まっており、価格改定の動きは特定業者に限らず全般的な傾向にある。
質問 12	法面工と吹付砕工の値上げ理由のコメントに、人件費の記載がなく「材料費上昇」のみを理由としている。人件費は影響しないのか。	労務単価上昇は工種や地区を限定せず全般的に影響を与えているが、値上げ交渉の浸透度合いは工種や地域により状況は異なる。こうしたなかで、法面工と吹付砕工はセメントを使用する工事であり、材料費の値上がりを背景に上伸した。労務費の影響も受けているが、値上げの主要因はセメント材料費である。

質問 13	レディーミクストコンクリートの小松の値上がり理由の説明で「新幹線開通に伴う周辺需要の増加」の影響であるとの発言があった。市況文には「災害復旧工事などの需要増加」とある。どのような状況か。	両方の影響がある。市況文では文字数の制限から影響の大きい要因を記載した。
質問 14	各資材分類のコメントに「価格改定」や「値上げ」の記載がある。「価格改定」には値上げ・値下げの両方の意味があるが、「価格改定」とそれ以外の「値上げ」等のコメントに使い分けはあるのか。	公表価格の分類はメーカーの公表価格をそのまま掲載するので、値上げも値下げも価格改定したという意味で「メーカーの『価格改定』による」と記載している。実勢価格の分類では、状況に応じた記載方法をしている。実勢価格の分類でもメーカーが規格間格差を見直した際には「価格改定」と記載している。
質問 15	全般的な工事需要に関して、東京地区での再開発工事は順調な一方、地方の中小工事は低迷しているということなのか。	東京地区だけでなく各地方の主要都市における大型建築工事は活況である。それ以外の周辺都市や中小物件では工事量の低迷が続いている。建築費高騰を理由に延期や中止となる動きも散見され、需要低迷が加速している状況も見られる。
質問 16	労働者不足のコメントで、外国人労働者の減少について言及があった。その理由は分かるか。	定量的で明瞭な裏付けはないが、日本に来ていた外国人労働者が、賃金の高い他国に行ってしまったという話は多く、日本の賃金が他国と比較して安価であることが主な要因の一つである。
審議結果	「建設物価」4月号、「Web 建設物価」4月号、「土木コスト情報」春号、「建築コスト情報」春号の価格動向に問題はなかった。	

以上